

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホーム いさはや (ユニット1)		
所在地	〒854-0001 長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の木造作りで庭が広く、家庭菜園・花壇の世話・収穫、夏は、夏祭り 冬には餅つきを楽しんでいます。春は、部落の花見に招待して頂き、公民館での炊き出しには、スタッフも参加し郷土料理を教えて頂いたり、ホームの行事にも積極的に参加して下さっています。地域の方に見守られ、地域に恵まれた自然がいっぱいの幸福なグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な山合いの丘陵地で近くに神社や池があり、バス路線沿いにあるホームは、山小屋風の住宅を明りとり窓や障子でくつろげる雰囲気作りを増改築されている。二階への階段には昇降機を取り付け、必要に応じて職員が対応されている。ホームの段差、傾斜のある廊下など全てに手すりを取り付け、入居者は手すりをつかまって段差を上がり降りされている。日常生活の中で、野菜作り・庭の散歩など機能訓練になる部分が多く見受けられる。地域の方の見守りもあり協力が得られている。ホームに復職した職員が、特別養護老人ホームでの経験により管理体制を見直し、誤薬のチェック体制の充実をやはり誤薬防止に努め、今後もひとり一人の思いに寄り添った関わりを大切に、ケアの質に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を申し送り時唱えていたが、最近に行っていない時があるが機会があるごとに会議などで話をして全スタッフが、共有し実践できるよう働きかけている。	家族の介護をきっかけにホームを開設、職員と代表が考えられた理念は、いさはやのホーム名をもじって、(いっいつまでも)(さっ最高の)(はっ働く姿勢)(やっやさしい手)4つの文言への思いが篤く感じられる。今後、また理念の唱和に取り組み、共有をはかり実践に繋げたいとされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	部落費を毎月支払い普段から広報配り、水道代の集金、回覧板など入居者と一緒に行っている。神社や公民館、道路の掃除にも職員が参加し、お米も地域の方から購入し出来たての新米を食べる事が出来ている。野菜等も持って来て下さり頂いている。	自治会に加入され、地域の活動にも積極的に参加して、ホームの行事への参加も呼びかけ地域との交流に努められている。また、入居者の安全に向けての理解と協力が得られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年部落の花見に招待して頂いているが今年もほとんどの入居者と職員が参加した。郷土料理をごちそうになり、カラオケやゲームを楽しむ事ができた。職員も部落の人と一緒に炊き出しに参加し郷土料理を教わったり、部落の話やグループホームの話もできた。部落の人全員と記念撮影も行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度2回実施した。各それぞれの立場から意見を交換し、情報を共有する機会であった。会議で話し合った意見を今後のサービスの向上に取り組みむ事が、出来るよう全スタッフにも情報を共有し努力している。	運営推進会議は、民生委員・地区総代・他のホームの施設長・家族代表・市職員・事業所代表・管理者で構成されており、活動報告で入居者の状況及び行事予定の報告や近況報告をして、「緊急の場合地区放送を利用してください」と助言を得られている。	会議の出席者に入居者・職員・家族も交替で参加し、双方向的に多くの意見を更なる反映に活かせるように、取り組みを工夫され、2ヶ月に1回を目途に開催されることに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修会で講演をして頂いたり、交流会・意見交換会で行うと相談に乗って頂いている。運営推進会議には、出席して頂き指導情報交換を行っている。	運営推進会議に参加していただき、問い合わせや空室情報を電話やファックスで連絡を行い、必要に応じ直接出向いて、常に連携をとられている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会は、毎年出席しその後会議で報告し知識を共有できるようにしている。帰宅願望の入居者さんも何人かおられるが、玄関の鍵はかけず、広い庭を伸び伸びと歩いて頂いている。言葉の拘束もしないように心掛けている。	昼食後に、庭を散歩され入居者が自由に過ごせるよう見守りをされている。非常口と庭のフェンスの鍵のほか、玄関の鍵は日中されていない。入居者への言葉かけも楽しい会話で、身体拘束をしないことを理解されたケアに取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会に積極的に参加し会議で知識を共有し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に出席した職員が会議の中で内容を報告して知識を共有したり、話し合いを行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し理解して頂き納得した上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は入居時に説明し、ホーム内にも掲示している。苦情解決委員会を設立しているが、委員には地区民生委員の方にも入っていただき、意見・要望等は運営推進会議で報告し助言を頂いている。	入居者の誕生会に「是非参加してください」と家族を説得して、家族との関係構築を支援されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1～2回会議を行い、必要時は随時話し合う場を持ち提案や意見交換を行い、反映出来るように努力をしている。	毎月1回の職員会議を、どの時間帯がいちばん適当か検討を重ねた結果、第4木曜日の14:00～15:00に話し合いの時間を設け、必要な場合は随時に話し合いを行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員各自と個人面談を行い、悩み・目標に対しての支援をしている。これからの課題として、個人面談記録を作成し、管理していく必要があると思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、スタッフ会議でケアに対する問題点等、改善しながら実施できるよう指導している。外部研修は出来る限り、交代で参加できるよう勤務体制を整えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修会等で同業者と交流する機会は多い。近隣の施設の訪問もお互いしており、今年の夏 近隣の施設の夏祭りに参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に本人の言葉に耳に傾け、本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し全職員が情報の共有が出来るようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時 家族の心配事や不安、困っている事、要望など、じっくり耳を傾けるようにし記録に残して全職員が情報を共有しただけ期待に沿うよう努力をしている。その後も問題が生じた時は、連絡を密に行い、一緒に解決できるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって一番必要な支援が何であるかを見極めてから、サービスの利用を家族とよく話し合っ検討していくようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物や食事作り、後片付け、洗濯物干し、たたみ、散歩、体操など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さなことでも楽しみを持って生活して頂けるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際 日頃の本人の状態を報告したり、相談に乗ったりしている。面会が少ない家族には、簡単な広報誌を郵送したり、電話を入れて近況を知らせるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊、旅行は自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。ホーム内で仲の良い入居者の家族同士で話し合い旅行されることもある。	入居者ひとり一人に、最低5枚の年賀状を書いていたが馴染みの関係の継続や、管理者と一緒に美容院や喫茶店に出かけ関係構築に努められている。また、入居者の経験の継続を大切に、野菜作りを楽しみなものへと支援されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事で小競り合うこともあるが、職員が仲立ちとなって場を取り持ち、お互いの関係を保てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院のまま退居に至った入居者には職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなった入居者の家族へ季節の便りを出すなどして関係の継続を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉かけや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合は、ケア会議を行っている。	入居者ひとり一人を大切に、困難事例があれば職員で話しあい、入居者が明るく過ごせるように思いを受けとめ、「一人ではないですよ、あなたの味方はいますよ、安心して」と信頼感をもてるような関わりに努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に尋ねたり、毎日の生活の中で本人さんとの何気ない会話の中で言葉を拾い、センター方式の記録に残し情報を全職員で共有しケア統一を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの一日の過ごし方など把握し対応している。申し送りノートや受診ノートに記入し情報を共有を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、ご家族様と話し合い、ケアカンファレンスにて職員のケアプランに関する達成感、問題点の意見を聞き把握しながら作成している。	担当制により職員の意見を重視して、計画作成をされている。職員が自信をもって取り組めるように、気づきを追記し入居者本位の計画ができるようになるまで、管理者が指導のうえ確認をされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づきの欄を作成しチェックが出来るようにしている。特記事項を広くとり、入居者の情報を共有出来るようにし実践やケアプランの見直しに活かせるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり担当職員を決め、個々の願いを達成できる日を目指し実践しようという提案は出ている。1対1で温泉に行ったり、喫茶店でコーヒーを飲んだり、買い物へ行ったりと特別の時間を作ろうと計画中である。家族の希望により入居者の妹さん宅へ送迎したり、職員のカラオケ大会や運動会、消防大会の応援に出掛けた事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会で職員が出場し応援に行ったことがある。部落の行事の花見に参加したり、神社参拝、空缶拾いをしたり、夏祭りや餅つきにきて頂いたりしている。食材の買出し、コインランドリーや広報誌配り、散歩では、顔見知りも多く挨拶を交わす関係である。美容院にも時々出掛けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め定期的に受診し家族に報告している。他の病院を受診する時は、必ず家族に報告し承諾を得るようにしている。	体調管理は常に取り組み、週1回木曜日に訪問看護により健康チェックを行い、必要に応じ受診して家族へ連絡をされる。訪問日当日、一人の入居者の方が発熱によりかかりつけ医への受診支援をし、その後、入院になり必要な品物を準備する等、迅速な対応をされていた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院の看護師や訪問看護師に気軽に相談できる関係である。全入居者が適切な受診と看護を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホーム連絡協議会の研修や交流会等で顔合わせる機会も多く、普段から相談をさせて頂いている。一人ひとりの入居者に状態により治療方針や退院に向けての支援計画など話し合うことにより本グループホームへ復帰できた入居者も多い。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約する事にあたり、家族に説明を行った。入居時も家族に説明をしているが、重度化した場合、現実として病院へ転院（つまり退去）するまでには家族の気持もあり難しい問題になっている。終末ケア・看取りまでにはまだ至っていない。	入居者及び家族には、文書にて訪問看護の利用など、詳細に説明をされている。家族の希望に添えるように、状況に応じ話し合いを重ねて支援に努めるように考慮されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を職員全員が受け、資格を習得している。グループホーム連絡協議会で定期的に研修に参加し訓練を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し地域の方にも参加して頂いている。部落の消防団・民生委員・総代の方にも連絡が行けるように連絡網を作成中である。	近隣の協力により、常に見守りをして頂いている。夜間想定避難訓練も実施され、地域の方や家族の参加も得られ、まずは、庭へ安全に避難する訓練をされており、台風時の止水に水用ポリタンクを備えられている。地震の訓練は、されていない。	災害対策として、食料や備品の備蓄、緊急用の顔写真入り入居者リストファイルの作成など、緊急時対応の話し合いの機会をもうけられ、更なる危機管理の充実に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は、声をかけたり、ノックをして入るようにしている。特に異性が介護する時は、プライバシーを損ねないように言葉かけや対応を工夫して行っている。	管理者は慣れ合いにならないことを大切に、入居者が納得できる声のかけ方を促されている。ホームでの生活の中で、家族が耳にしても入居者ひとり人を大切にされていると感じとれる、安心のある呼び方で関わられている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来るように声掛けに工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。一人ひとりのペースを大切にし業務優先にならないよう常にスタッフ同士で話し合いを行い努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている入居者の方が多いが、地域の美容室へスタッフと出かけたり、衣替え時や行事前には、衣料品店へ出掛け好みの服を選んで頂いている。去年温泉旅行に行った時は、お化粧をして出かけたり、夏祭りでは、甚平を着ていただいた。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に野菜の皮むき、配膳、後片付け等毎日手伝って頂いている。味見もして頂いている。	季節の食材をたっぷり用い、おいしく調理されており、完食されている。素材の話や調理方法の話で和やかな食卓となり、好みや食べたい物の話を聞いている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので一人ひとりに合った量を提供しているが、小食や食欲のない方には、栄養ドリンクや好みのおやつ等で補食を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに合わせて歯磨き、うがいを行っている。仕上げ磨きも必要な入居者は毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は自由にトイレへ行って、排泄して頂いているが失禁のある入居者さんについてはそれとなく声掛けしてリハビリパンツやパットの交換をして頂いている。夜間常も見守りを行い、トイレ誘導を必要としている入居者さんにはその都度対応している。	便秘薬や野菜・果物のできる限り、1日1回の排便をできるようにまた、既往症への配慮として食事療法にも努められている。入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導が必要な方は、さりげなく職員が対応されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多め使った料理やバナナ等の果物を提供し日課としてラジオ体操や足踏み体操、散歩で体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬を処方して頂き、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴タイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫など行っているが、職員の配置上昼間の時間帯で入浴して頂いており日曜日以外、いつでも入れる体制をとっている。入浴嫌いの入居者さんについては、家族が温泉に連れて行かれたり、家族に入浴を勧めてもらったりすることもある。	入居者が一緒に入浴されていた時もあり、楽しい時間として対応されている。入浴事故のないよう安全に配慮され、ゆったりとした対応と言葉かけの工夫をして無理強いをしないように入浴支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、居室へ自力で行けない入居者さんには、本人さんの希望を聞いて休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬処方説明書を頂き医師や薬局より説明を受け個々の薬管理を行い、職員が服用させている。頓服の服用にあたっては、管理者に報告し指示を仰ぐ形にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔縫い物の仕事をしていた方には雑巾を縫って頂いたり、習字の上手だった方には自由に書いて頂いたり、庭の花を摘んで自由に生けて頂いている。また行事での紙芝居作りを一緒に作成したりしている。チョコレートやアメなどは、個々の状態に合わせて提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物、コインランドリー、美容院など積極的にお誘いしている。図書館のカードを作っており時折本や紙芝居を借りて楽しんでいる。昨年は、温泉日帰り旅行を家族、職員、入居者一同で出掛けた。	職員の車に乗り合わせたり、レンタカーを借りるなどしながらドライブに出かけたりしている。訪問調査当日は、入居者のご家族と入居者が、ホームでのお友達も一緒に、食事も兼ねて楽しんで外出をされ、入居者はとても素敵な笑顔でホームに戻られていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望で、お金を所持されている方は、何人かおられる。事務所預かりの方も買い物には、どんどん連れて行き好きな物を購入して頂いている。家族の了承の元、お小遣い帳も付けており、領収書を保管している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた時のお礼の電話や家族への電話要求があった時は、電話をして頂いている。毎年 年賀状を家族に出している。普段の手紙を書ける体制をとっているが気分により書かれないことが多い。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾り、カーテンやバインダーやエアコン、扇風機、加湿器、ヒーター等で温度調節を行っている。食器の後片付け、配膳、下膳も気軽に出来るように工夫している。	入居者は、テレビを見ながらソファーに寛いだり、職員と語り合いながら食事の準備、煮物の煮える香りを感じながらゆったりと過ごされている。山小屋風で、屋根の明かりとり窓の日差しを、カーテンでさえぎる等の工夫をされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のソファーを決め自由にくつろいだり、それぞれ気の合った入居者さん同士で個々の居室で談話したり、趣味を楽しんで頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や家族の位牌、写真を大事に飾ったり、自由に花を摘んで花びんに生けられている。花びんは、入居者の目の届く所に置いていつでも生けられるようにしている。	居室は、1階、2階の部分でそれぞれにおもむきが違い、入居の説明の際に納得頂いて入居を決められている。明かり取り窓や障子で部屋の雰囲気作りに努め、家族の訪問時に居室で寛ぐことができるように敷物をしたり、馴染みの品物が持ち込まれている。入居者が部屋の掃除をされることに取り組みされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所の貼り紙や矢印、時計、大きなカレンダーをいつも目に入る所に設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホーム いさはや(ユニット2)		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を申し送り時唱えていたが、最近に行っていない時があるが機会があるごとに会議などで話をして全スタッフが、共有し実践できるよう働きかけている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	部落費を毎月支払い普段から広報配り、水道代の集金、回覧板など入居者と一緒に行っている。神社や公民館、道路の掃除にも職員が参加し、お米も地域の方から購入し出来たての新米を食べる事が出来ている。野菜等も持って来て下さり頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年部落の花見に招待して頂いているが今年もほとんどの入居者と職員が参加した。郷土料理をごちそうになり、カラオケやゲームを楽しむ事ができた。職員も部落の人と一緒に炊き出しに参加し郷土料理を教わったり、部落の話やグループホームの話もできた。部落の人全員と記念撮影も行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度2回実施した。各それぞれの立場から意見を交換し、情報を共有する機会であった。会議で話し合った意見を今後のサービスの向上に取り組む事が、出来るよう全スタッフにも情報を共有し努力している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修会で講演をして頂いたり、交流会・意見交換会でいろいろと相談に乗って頂いている。運営推進会議には、出席して頂き指導情報交換を行っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会は、毎年出席しその後会議で報告し知識を共有できるようにしている。帰宅願望の入居者さんも何人かおられるが、玄関の鍵はかけず、広い庭を伸び伸びと歩いて頂いている。言葉の拘束もしないように心掛けている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防	研修会、勉強会に積極的に参加し会議で知識を共有し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に出席した職員が会議の中で内容を報告して知識を共有したり、話し合いを行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し理解して頂き納得した上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は入居時に説明し、ホーム内にも掲示している。苦情解決委員会を設立しているが、委員には地区民生委員の方にも入っていただき、意見・要望等は運営推進会議で報告し助言を頂いている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1～2回会議を行い、必要時は随時話し合う場を持ち提案や意見交換を行い、反映出来るように努力をしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員各自と個人面談を行い、悩み・目標に対しての支援をしている。これからの課題として、個人面談記録を作成し、管理していく事が必要だと思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、スタッフ会議でケアに対する問題点等、改善しながら実施できるよう指導している。外部研修は出来る限り、交代で参加できるよう勤務体制を整えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修会等で同業者と交流する機会は多い。近隣の施設の訪問もお互いしており、今年の夏 近隣の施設の夏祭りに参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に本人の言葉に耳に傾け、本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し全職員が情報の共有が出来るようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時 家族の心配事や不安、困っている事、要望など、じっくり耳を傾けるようにし記録に残して全職員が情報を共有しただけ期待に沿うよう努力をしている。その後も問題が生じた時は、連絡を密に行い、一緒に解決できるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって一番必要な支援が何であるかを見極めてから、サービスの利用を家族とよく話し合って検討していくようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物や食事作り、後片付け、洗濯物干し、たたみ、散歩、体操など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さなことでも楽しみを持って生活して頂けるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際 日頃の本人の状態を報告したり、相談に乗ったりしている。面会が少ない家族には、簡単な広報誌を郵送したり、電話を入れて近況を知らせるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊、旅行は自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。ホーム内で仲の良くなった入居者の家族同士で話し合い旅行されることもある。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事で小競り合うこともあるが、職員が仲立ちとなって場を取り持ち、お互いの関係を保てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院のまま退居に至った入居者には職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなった入居者の家族へ季節の便りを出すなどして関係の継続を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉かけや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合は、ケア会議を行っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に尋ねたり、毎日の生活の中で本人さんとの何気ない会話の中で言葉を拾い、センター方式の記録に残し情報を全職員で共有しケア統一を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの一日の過ごし方など把握し対応している。申し送りノートや受診ノートに記入し情報を共有を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、ご家族様と話し合い、ケアカンファレンスにて職員のケアプランに関する達成感、問題点の意見を聞き把握しながら作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づきの欄を作成しチェックが出来るようにしている。特記事項を広くとり、入居者の情報を共有出来るようにし実践やケアプランの見直しに活かせるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり担当職員を決め、個々の願いを達成できる日を目指し実践しようという提案は出ている。1対1で温泉に行ったり、喫茶店でコーヒーを飲んだり、買い物へ行ったりと特別の時間を作ろうと計画中である。家族の希望により入居者の妹さん宅へ送迎したり、職員のカラオケ大会や運動会、消防大会の応援に出掛けた事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会で職員が出場し応援に行っていることがある。部落の行事の花見に参加したり、神社参拝、空缶拾いをしたり、夏祭りや餅つきにきて頂いたりしている。食材の買出し、コインランドリーや広報誌配り、散歩では、顔見知りも多く挨拶を交わす関係である。美容院にも時々出掛けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め定期的に受診し家族に報告している。他の病院を受診する時は、必ず家族に報告し承諾を得るようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院の看護師や訪問看護師に気軽に相談できる関係である。全入居者が適切な受診と看護を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホーム連絡協議会の研修や交流会等で顔合わせる機会も多く、普段から相談をさせて頂いている。一人ひとりの入居者に状態により治療方針や退院に向けての支援計画など話し合うことにより本グループホームへ復帰できた入居者も多い。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約する事にあたり、家族に説明を行った。入居時も家族に説明をしているが、重度化した場合、現実として病院へ転院(つまり退去)するまでには家族の気持もあり難しい問題になっている。終末ケア・看取りまでにはまだ至っていない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を職員全員が受け、資格を習得している。グループホーム連絡協議会で定期的に研修に参加し訓練を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し地域の方にも参加して頂いている。部落の消防団・民生委員・総代の方にも連絡が行けるように連絡網を作成中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は、声をかけたり、ノックをして入るようにしている。特に異性が介護する時は、プライバシーを損ねないように言葉かけや対応を工夫して行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来るように声掛けに工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿えるように対応している。一人ひとりのペースを大切にし業務優先にならないよう常にスタッフ同士で話し合いを行い努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている入居者の方が多いが、地域の美容室へスタッフと出かけた時、衣替え時や行事前には、衣料品店へ出掛け好みの服を選んで頂いている。去年温泉旅行に行った時は、お化粧品をして出かけた時、夏祭りでは、甚平を着ていただいた。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に野菜の皮むき、配膳、後片付け等毎日手伝って頂いている。味見もして頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので一人ひとりに合った量を提供しているが、小食や食欲のない方には、栄養ドリンクや好みのおやつ等で補食を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに合わせて歯磨き、うがいを行っている。仕上げ磨きも必要な入居者は毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は自由にトイレへ行って、排泄して頂いているが失禁のある入居者さんについてはそれとなく声掛けしてリハビリパンツやパットの交換をして頂いている。夜間帯も見守りを行い、トイレ誘導を必要としている入居者さんにはその都度対応している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多め使った料理やバナナ等の果物を提供し日課としてラジオ体操や足踏み体操、散歩で体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬を処方して頂き、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴タイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫など行っているが、職員の配置上昼間の時間帯で入浴して頂いており日曜日以外、いつでも入れる体制をとっている。入浴嫌いの入居者さんについては、家族が温泉に連れて行かれたり、家族に入浴を勧めてもらったりすることもある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、居室へ自力で行けない入居者さんには、本人さんの希望を聞いて休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬処方説明書を頂き医師や薬局より説明を受け個々の薬管理を行い、職員が服用させている。頓服の服用にあたっては、管理者に報告し指示を仰ぐ形にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔縫い物の仕事をしていた方には雑巾を縫って頂いたり、習字の上手だった方には自由に書いて頂いたり、庭の花を摘んで自由に生けて頂いている。また行事での紙芝居作りを一緒に作成したりしている。チョコレートやアメなどは、個々の状態に合わせて提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物、コインランドリー、美容院など積極的にお誘いしている。図書館のカードを作っており時折本や紙芝居を借りて楽しんでいる。昨年は、温泉日帰り旅行を家族、職員、入居者一同で出掛けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望で、お金を所持されている方は、何人かおられる。事務所預かりの方も買い物には、どんどん連れて行き好きな物を購入して頂いている。家族の了承の元、お小遣い帳も付けており、領収書を保管している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた時のお礼の電話や家族への電話要求があった時は、電話をして頂いている。毎年 年賀状を家族に出している。普段の手紙を書ける体制をとっているが気分により書かれないことが多い。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾り、カーテンやバインダーやエアコン、扇風機、加湿器、ヒーター等で温度調節を行っている。食器の後片付け、配膳、下膳も気軽に出来るように工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のソファを決め自由にくつろいだり、それぞれ気の合った入居者さん同士で個々の居室で談話したり、趣味を楽しんで頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や家族の位牌、写真を大事に飾ったり、自由に花を摘んで花びんに生けられている。花びんは、入居者の目の届く所に置いていつでも生けられるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	便所の貼り紙や矢印、時計、大きなカレンダーをいつも目に入る所に設置してある。		